

平成 30 年度 第 1 回浦安市男女共同参画推進会議 議事要旨

1. 開催日時

平成 30 年 11 月 12 日（木）午後 6 時～午後 8 時

2. 開催場所

文化会館 3 階 第 1 会議室

3. 出席者

（委員）矢口会長、菅宮副会長、津矢田委員、小澤委員、桑委員、
塩谷委員、荻野委員、澤田委員、伯野委員、石塚委員
（事務局）男女共同参画センター所長、副主査、主任主事

4. 議事次第

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 企画部長あいさつ
- (4) 委員紹介
- (5) 議題
 - ・「改訂第 2 次うらやす男女共同参画プラン」
平成 29 年度庁内基本事業調査結果について
- (6) 閉会

5. 配布資料

- ・浦安市男女共同参画推進会議委員名簿(平成 30 年度)
- ・平成 29 年度庁内基本事業調査について
- ・目標値
- ・調査結果（別紙）

6. 議事概要

○企画部長あいさつ

皆様には日ごろから男女共同参画施策にご理解ご協力をいただきまして本当にありがとうございます。本日は 29 年度に実施いたしました男女共同参画庁内基本事業調査についてご報告をさせていただきます、大所高所からいろいろご意見ご指摘をいただければというように考えております。よろしく願いいたします。

○議題

事務局より、改訂第2次うらやす男女共同参画プラン策定に伴う、平成29年度市内基本事業調査の結果について説明が行われた。

(主な意見等)

会 長 ただいま事務局より平成29年度市内基本事業調査の結果について説明があった。このことについて、何か質問、意見等はあるか。

委 員 男女平等教育の推進について、男女混合名簿の作成を導入とあるが、自身の子育て経験上ではまだ男女分け名簿であった。他市では男女混合が進んでいる印象があり、浦安市でも推進していく必要があると感じたが。

事務局 今後も担当課と十分に話し合い、担当課の評価と実際の事業が乖離することのないよう注視していきたい。

委 員 学校では、社会科の中で人権問題を取り扱う単元があり、そこで性別役割分担意識をもたないような指導もしているし、昔と違い、家庭科の調理にしても男女共修である。男女混合名簿については、主に小学校で使用している。中学校では男女混合名簿を作っているが、現場では男女別を利用する場合が多い。今回の事業調査での、一部課題が残るといふ担当課の判断はこうした部分に関することと思われる。

会 長 事務局では何か把握しているか。

事務局 現状、小・中学校における事実上の使用方法は把握していない。混合名簿の作成自体は把握していた。

会 長 各々が子育てを経験した年代を考えると、反発する方もいるかと思われるが、大学では混合名簿である。加えて、性別表記は基本的に行っていない。なお、性同一性障害という表現について、病気ではないという考え方のもと、性別違和を感じる学生については名前を自分の使いたい名称に変更することを認めるなどLGBTへの配慮もしている、そういう時代になった。小中学校も動いてはいるが、宿泊研修等、男女別名簿を用いたほうが指導しやすいという事情も考えられる。しかしながら、混合名簿を作成しているのであれば、

活用しているところを保護者等に見えるようにすると理解が得られやすいかもしれない。少しずつでもそうした方向にいけばよいと思う。

ほかに何かあるか。

委員 NEWの意味をもう一度教えてほしい。

事務局 第2次プランから改訂第2次プランに改訂を行った際に新しく追加したものや、既存事業に新しい視点を加えたものである。

委員 複数の項目にかかっているのは全体が新しいということか。

事務局 ご認識のとおりです。

会長 改訂までの間に国としても様々な動きがあった。項目が多々増える部分があれば、微修正に留まる部分もある。

ほかに何かあるか。

委員 改善を要する点がある部分について、講座を利用する人がいなかったとあるが、デートDVなどは興味がある人はいるように思う。カウントの際に、男女共同参画の分野の講座であっても、男女共同参画という言葉が頭についていないためにカウントされていない、そうした事態が起こっていないか。

事務局 現状は単に男女共同参画についてとなっているだけである。今後は講座の名前を具体的にするなど、申込みしやすく、利用者のカウントも容易に出来るよう調整していきたい。

委員 連携はどうしていくか。

事務局 開催可能な講座について、男女共同参画センターから積極的に案内していきたい。

会長 講座については、分かりやすく、また、市民が学びたいと思えるようなテーマを目指し働きかけてほしい。

ほかに何かあるか。

委員 乳がん検診などの受診率が低い。マスコミなど外的要因も大きいかと思うが、なぜか。

事務局 周知は行ったが、受診率が伸びなかったとの報告は受けている。

委員 毎回受診しているが、結果が出るまで長時間かかる。目標どおりの人数が受診したとすると丸一日かかってしまうのではないか。また、実施回数について、市民が求めている回数よりも少なく、受診できない市民もいるのではないか。

事務局 就労者は人間ドックなどで受診される方もいる。専業主婦やパートで働いている方は、この検診をたくさん受けていると伺っているが、もし需要があるのに対応できていないのであれば改善する必要がある。

委員 待ち時間が長い。時間をもったいないように感じる。

会長 市民への情報周知の不足というより、条件が整っていないという可能性もある。大事な視点を出して頂いたので改善して行ってほしい。

委員 マンモグラフィ検査は40代以上か。

事務局 ご認識のとおりです。

委員 子育て世代が受診しづらいかもしれない。保育はついていなかったように思う。

会長 30代、40代でも乳幼児をかかえている人はたくさんいる。子どもの一時託児などがあれば確かに受診もしやすくなると思われる。ほかに何かあるか。

委員 審議会等における女性委員割合の向上とあるが、改訂前の目標値はすでに達成しているとのこと。公募の際は女性を優先的にとるなどしているのか。

委員 基本的に優先的にというのは不可でないか。

会 長 女性が全くいない審議会も相当数あるはず。高度な専門性が求められていると思うが、そこでも女性が専門性を認められて任命されるのが本来の姿だと思う。そうした状況の中で、女性が全くいない審議会はあるのか。

事務局 ある。専門的な知識を有する方をお願いする形をとると、現状どうしても男性が多かったり、当て職でなってしまう部分はある。

会 長 審議会の種類によって政策決定への影響力の大小も異なってくると、男女共同参画社会における政治的決定について、男女のバランスが崩れているということである。我々が議論すべきは、実はその中身ではないか、と考える。これについて事務局から補足はあるか。

事務局 当て職での増減はあるが、市民参加推進条例では女性の割合は3割以上との定めがある。また、男女共同参画推進会議については4割以上としている。

会 長 当て職という考え方も次第に無くなってきたかと思う。市民の少し専門性のある方へお願いすることもできるのではないか。何かの役員をやっていた方がいくなど、慣例的な部分を変えていかないと数字は変わらないと感じる。
ほかに何かあるか。

委 員 女性消防団員について、目標値は達成しているが、実は男性団員の数が減少している。

会 長 浦安市は国よりも高い目標を掲げているが、男女双方の団員を増加させられるような働きかけも必要ではないか。
ほかに何かあるか。

委 員 審議会等の委員公募で、募集人数を超過した際、試験や論文などで選ぶことが過去にあった。相当高度な内容だったが、一般の方が書くのは難しいのではないか。

会 長 審議会等々の委員を試験で選抜する場面があるのか。

事務局 試験はないが、意欲や思いなどを見るため、作文程度のものを書いていただくことはある。

会 長 市民の意識が非常に高く、公募に殺到したため選抜しなければならない時代があったとのこと。現在は応募者が少なく悩みになっている。委員選定の仕方も昔ながらのものが多く、決まったところに決まった役職の人がいくしかない。こうした部分を今後改善していくべきなのではないだろうか。
ほかに何かあるか。

委 員 浦安市も地震で大きな被害を受けたが、やはり防災や震災に関する講座が少なくなっている印象を受ける。消防との共催も出来るのではないか。

会 長 浦安市ならではの情報発信の仕方、あるいは女性消防団員との共催企画など、今後に向けて考えてほしい。事務局としてはどうか。

事務局 男女共同参画センターで、うらやすP-Lifeという情報紙を発行している。その中で、数年に一度、防災をテーマに作成している。今後は関係部署などとの共催など、調整検討していきたい。

会 長 ほかに何かあるか。

委 員 市民大学について、もっと多くの人、とりわけ女性が参加してほしいと思う。

会 長 満足度は高いようだが、なぜ参加者が少ないのか、事務局で把握しているか。

事務局 市民大学の講座は10回など比較的長いものがあり、その時間に来られない方もいる。効果的な開催日時など情報共有しながら、たくさんの方が参加できるような形にしていきたい。

会 長 平日に週2回、ずっと行ける方は少ないかもしれない。また、保育は必要であるが、あったとしてもお子さんの体調等で継続的な参加が難しいかもしれない。日時や回数について試行してほしい。
ほかに何かあるか。

会 長 自己評価や点検など、どのような現場でも様々な形で行っていると思うが、今は高い評価をしても、では次にどのようにステップアップするのかと聞かれる、そんな時代に入ってきている。今回の調査結果で十分達成していると回答した事業について、この先はどのように展開していくか、ということを我々は引き続き見ていかなくてはならないと感じる。

議題はこれでよろしいか。

特になければ会議を終了し、一度事務局に戻す。

事務局 平成 30 年度の男女共同参画推進会議は年 2 回を予定している。次回は、年明け 3 月までの間に予定している。日程については改めて連絡する。

会 長 こうした会議は発言をすると確実に届けられる、改善につながる。今後とも皆さんの様々な意見をいただきながら、有意義な場にできればと思う。それでは第 1 回男女共同参画推進会議をこれにて終了する。

以上